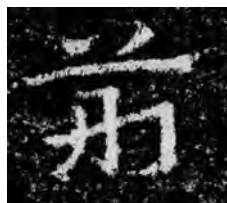


步步 經鹽 祥祥 檀檀
 却超 新其 祀鬼 芳荊
 悔祥 龍龍 誰離 林棘
 殺殺 馳馳 致致 葉葉
 禍禍 練練 子子 枝枝
 義義 亨亨 初初 扶扶

松江本急就章



書道芸術院

平成の群像 (2015)



加瀬 澄 春

菊根分け…。

数ヶ月前、この頁の原稿依頼をいただきハタと困った。私は書道を始めて約半世紀、この間特に目的も動機もなく、ただ書く事が好きだから今日まで続けている有様なので、止むなく10年前にご他界なさった師・

古橋飛山先生に天国より一時帰宅していただきご協力を仰ぐことにした。
昭和48年頃、芸術院の上層部に席を置かれていた先生が、近くにお住いだっただけで教えを受ける事になった。当時先生は60才、意気軒昂で自信に満ち／＼しておられた。

「書道芸術」誌を中心の学習だったが、古典の臨書も積極的に取り組むご指導だった。古典の重要性を強調され楷書からの練

習はすべて法帖からだった。私達弟子は毎日臨書に明け暮れた。と同時に展覧会への出品も勧められた。
先生は明清調の作品をよく発表しておられた。上野や銀座へも何度かお供をし鑑賞させていただいた。

古典の中で先生のお気に入りやはり書聖王羲之だった。特に蘭亭叙には深く傾倒され、ご自宅のお庭で曲水の宴を楽しまれる程だった。我々も何度か招待していた。しかしそれ以上に強くご指導いただいたのは草書で、十七帖と孫過庭の書譜だった。

十七帖に時折見られる「断筆」を大変好まれ、我々に繰り返しご指導して下さる。草書では切り離さない画を二筆とし、次の第1画へ移行する。先生の筆使いは魔法の様で瞬時に蘇生し生き返った。又書譜も王羲之の筆意を系統したものと話され、十七帖以上に評価された。書譜の線の深さ、骨力を耳を澄ませ筆の音を聞いて書けと。そして情性に流れたら書譜に返れと。

以来先生流の明清はあまり勉強せず草書中心の作品構成が続いた。

師曰く「菊根分け、あとは自分の土で咲け」だよ。以後は(法帖を手に)これが先生だ。」とある折言われた。

今日私も何人かのお弟子を持って、やっとその時の意味が理解できた。個人の作品の方向は指導者には教えることが出来ない。自分で道を開くしかない。バイブル(古典)片手に自分の足(土)でしっかり根づき葉を繁らせ、花を咲かせるしかないのだと。
師の金言を心に納め、40数年未だ花の咲かない私の菊に今日も水を与えよう。師は天国に帰り菊根分けは失敗だったと嘆いておられたらう。



白扇書道会展出品作「臨 十七帖」

書のひろば

理事長 辻元大雲

平成27年度スタート

公益財団法人認可から3年を経過し、東京都美術館での本展開催も66〜68回展と3度目を本年2月に無事終了、併催の全国学生書道展も半紙部門、半切1/2部門とも定着安定した開催を行ってきた。本年4月より平成27年度の新たなスタートをする。ほぼ例年並みの事業内容で展開する予定。

新たに「企画委員会」を立ち上げ将来に向け種々検討を行い、時代の移り変わりに対応できる体制を構築したいと願っている。会員諸氏のご支援ご協力を切に願いたい。

第67回毎日書道展始動

4月15日午後、東京如水会館にて第67回毎日書道展事務局合同会議が開催され、本格的な毎日書道展が始動した。合同会議に先立ち審査副部長会議及び陳列副部長会議がそれぞれ開催され、運営細部の打ち合わせが行われた。

合同会議では実行委員長（辻元大雲）、総務部長（下谷洋子）、審査部長（永守蒼穹）、陳列部長（石原太流）の挨拶などが審査部委員、総務部委員など300名余に向け行われ、懇親会では今後の鑑別審査、陳列、開会などに向けて

大いに氣勢を上げ盛会であった。

第50回記念高野山競書大会開催 一般部も含め出品ご協力

昭和40年、高野山開創1150年を記念して発足した高野山書道協会を母体として開催された「高野山競書大会」は本年開創1200年にあたり第50回記念大会を迎える。昨年第49回大会では審査長を本院辻元大雲が務め、多くの方々のご協力により盛況裡に終了した。

過去5年の節目ごとに記念事業として上位入賞者を中国研修旅行に招待し、今回展でも同様の企画が立てられている。今回展の審査長は創玄書道会の石飛博光理事長が担当する。小中高校生のほか一般部も半紙作品での応募であり、1人10点まで出品できる。一般部には審査対象外の献書部門もあり、空海弘法大師のご加護のもと書道文化の振興発展のため、多くの方々のご出品ご参加を期待したい。

作品出品締切 5月27日（水）
出品料 学生部1点350円
一般部1点700円（献書も）

詳細は高野山書道協会へ
〒648-0294

和歌山県伊都郡高野町高野山132
高野山書道協会

TEL 0736-15612012

全日本書道連盟夏期書道大学

恒例の全書連主催、夏期書道大学が

本年も左記日程、講師陣にて開催される。全書連役員による講習は内容・レベルも高度であるが、実際に身近に実技講習を受けられる絶好の機会である。定員制で参加者数が制限されるため早めの応募を。

・日時 7月31日（金）〜8月2日（日）
・会場 池袋サンシャイン5F
・講師 楷書 赤平泰処
篆書・隸書 石坂雅彦
漢字かな交じり書 永守蒼穹
行書 山中翠谷
かな 吉川美恵子
草書 吉澤大淳

・受講料・日程など詳細は5月発行予定の要項参照
「書道芸術」春季昇級試験実施

「書道芸術」春季昇級試験実施

本号で649号を迎える本院発行競書雑誌「書道芸術」では毎年春秋に特別昇級試験を実施している。特に上位段位の方にとり昇段する機会はこの特別昇級試験しかなく、皆さんよく努力精進されている。上位の段では原級留め置きの方も半数以上と厳しく、難関となっている。普段の地道な努力により基礎基本をマスターすることが肝要である。1種から3種まで実施しているが、特に3種は各科目により年1回しか実施されないため、昇級の機会が限られている。今回は漢字条幅とかな半紙部門で3種科目を実施した。結果は結果としてさらなる精進を期待する。

名越蒼竹書展 初個展を多彩に

本院理事・山陰支局長をお勧め頂いている名越蒼竹先生が、平成23年3月鳥取県立倉吉東高等学校長を最後に永きにわたる教員生活に終止符を打たれたことを契機に、これまでの書活動の総まとめの意味を含め、初個展を開催された。教員生活を終えてからの約4年間、個展の構想、詩文選択、自用印の制作などからはじめ、様々な作品に挑戦され、更にこれまでの中央での発表作や篆刻作品、発表論文なども含め、多彩な展示発表となった。会場には恩地春洋、香川倫子両顧問はじめ院幹部も訪れ盛況であった。先生の今後のご活躍ご健勝をお祈りしたい。

会期 平成27年4月1日〜5日
会場 倉吉博物館



名越先生を囲んで

現代詩文書 (二)

田村 鄭雲

テーマ、詩文の設定

詩文は4種類程度の自分の言葉にしました。これだけの大きさに表現するには他人の言葉ではいかに素晴らしい言葉でも、体の底からのエネルギーが湧きません。つたない言葉でも自分の中から湧いてくる言葉を書かないと大きさに負けると考えました。

この言葉は還暦を迎える年になり振り返ってみると自分の人生、良いことも多かったが、辛いこともかなりあった。でもその辛いときが自分が磨かれている時なんだなあ、ということ。力強く生命感溢れる表現がねらいです。

言葉を選んだら大きさに合わせた縮小版の紙に構成を作成します。

A3用紙に構成、このときは面白いように書ける。

揮毫の際には、構成した用紙に16分割した方眼を入れ、それに沿って実際の用紙に小さい文鎮を置き位置の目印としました。

書いて見ると構成とは似ても似つかない貧弱な作品になってしまいます。元々A3の小さい物を何十倍にも拡大することは無理なようです。

21世紀の書

—私の主張—

前衛書 (二)

太田 蓮紅

—前衛書の浸透性—

前衛書はどれだけ社会の中で認められ理解されているのだろうか。大都市と地方都市、生活環境、文化や考え方など諸条件によって違いが生じてくることは当然である。

地方の書展での一コマだが、伝統書部門の審査員の口から「前衛・墨象は見てもらえない。審査は放棄……」という言

葉を耳にした。書家たる者わからないとは言っていない。せめて理解せずとも心の目で何かを感じたり、前向きな姿勢を見せて欲しかったという事を思い出す。前衛書を志す者は少なからず書展を通じて少しでも理解してもらおうための努力は常に行っているはずである。前記したようなケースがあるたびに挫折してしまうが、自分がどれほど理解しているか考えたと答えに詰まる。いつも自問自答の日々である。

ともあれ常に心を豊かに感情を研ぎ澄ませていることが必要なのかも知れない。

掲載の作品は2009年毎日新春展の作。墨の色彩は5色とも7色とも言われるほど多くの彩りを放つ。作品への思い入れによって墨色を選ぶのは当然である。今回は宿墨、墨の真煙を拾い調整し込みの透明度に配慮した。二層紙の中にやさしくじんわりと空間に響くように、筆の角度や圧、緩急の変化を交えて引き込む線、瞬時に飛び散る飛沫の効果。筆が空を切り舞って生まれた造形に、作者の深い思いを託し宿らせた。

2009年 毎日新春展出品作 太田蓮紅書



第68回書道芸術院展続

(併催 第66回全国学生書道展)

実行委員長

大野 祥雲

第68回書道芸術院展(併催第66回全国学生書道展)については、平成26年3月14日開催の理事会に於て、その大綱が次のように決定された。

○第68回書道芸術院展

1.会期 平成27年2月17日(火)～2月21日(土)

2.会場 東京都美術館(上野公園内)

3.募集規定

ア.無鑑査、一般部公募の部

・作品・書類搬入

・鑑別・審査 平成26年12月19日

・鑑別・審査 平成27年1月10日

イ.審査員、審査員候補の部

・書類搬入 平成27年1月29日

・作品搬入 平成27年2月8日

ウ.審査

・審査員候補 平成27年2月9日

・審査員 平成27年2月10日

4.作品研究会 平成27年2月21日

都美術館に於て行う。

5.表彰式(学生展の表彰、祝賀懇親会)

平成27年2月21日 帝国ホテルに於て行う。

テルに於て行う。

6.出品作品サイズ(単位cm)

1.財団理事・監事

A.180×180 B.120×240

2.その他 変更なし

7.一般公募出品料

1.30歳以上 7000円

2.30歳未満および70歳以上

(平成27年1月1日現在) 3000円

8.運営委員会

○運営委員長

○運営委員

辻元大雲

飯高和子

板垣洞仙

金井如水

後藤大峰

小伏小扇

嵯峨大拙

下谷洋子

千葉蒼玄

牧 泰壽

浜田堂光

大野祥雲

小竹石雲

下谷洋子

事務局長

千葉蒼玄

前田龍雲

三浦鄭街

江本興舟

後藤大峰

田村鄭雲

祝賀会部長 三森慧香

会計部長 白石和楓

○第66回全国学生書道展

1.出品規定

ア.出品資格

第1部 幼稚園、小学生

第2部 中学生

第3部 高校生

第4部 大学生、専門学校生

イ.部門 ①半紙の部 ②半切1/2の部、両部門に出品できる。

ウ.作品締め切り・搬入

平成26年10月31日(金)

エ.審査

平成26年11月6日(木)～9日(日)

オ.褒賞 A個人賞 B団体賞

2.運営委員会

○運営委員長

辻元大雲以下実行委員長、実行副委員長、陳列部長、

会計部長、事務局長、次長は院展、

学生展共通。

学生展総務部長 前田まさ美

学生展審査部長 小伏小扇

学生展表彰部長 平川峰子

学生展揮毫部長 生田翠龍

本部役員(公益財団法人理事、監事、評議員、参事)

3.中央審査員

A賞審査員 辻元大雲 大野祥雲

小竹石雲 下谷洋子 種谷萬城

小浜大明

A賞選考委員(8名)

中央審査員(22名)

4.指導者作品展示

ア.出品資格・本展出品指導者

・「書道芸術学生版」支部指導者

・書道芸術院審査員

イ.作品寸法 半紙額内自由

○運営委員会

第68回書道芸術院展 運営委員会を

平成26年6月12日(木) 文具会館に於て

開催。

※審査委員の作品について

褒賞 書道芸術院春華賞(1名)とする。

○選考は運営委員(財団理事・監事)

が担当。名誉会員、参与会員、選考

委員、参事で過去の理事・監事経験

者、過年度受賞者は対象外。これま

でと同様同賞候補作品には赤シール

を添付し公表する。

※審査員候補の作品について

褒賞 書道芸術院大賞、書道芸術院

準大賞、白雪紅梅賞については従来

通りとする。なお、同候補となった

作品については昨年と同様「書道芸

術院俊英賞」とし、白雪紅梅賞(1

点)の1/4、(0.25)とし、審査員昇

格(取得条件2点)への得点化を行

う。

○選考委員は運営委員(財団理事・監

事)が担当。

※無鑑査作品について

褒賞 院賞、毎日新聞社賞、特選、

秀作とし従来通りとする。

。審査員 漢字部主任・竹本龍汀はじめ12名。かな部主任・奥田瑞舟はじめ3名。現代詩文書部主任・田村鄭雲はじめ11名。篆刻・刻字部主任・佐藤香山はじめ2名。前衛書部主任・津田海仙はじめ6名。

。無鑑査審査事務委員

漢字部主任・川島舟錦はじめ13名。かな部主任・福田令子はじめ3名。現代詩文書部主任・佐藤無極はじめ11名。篆刻・刻字部主任・赤羽蘭徑はじめ2名。前衛書部主任・三森慧香はじめ6名。

○一般公募作品について

褒賞 入選作品のなかから審査して、準特選、佳作、褒状を与える。

。審査員 漢字部主任・半田藤扇はじめ12名。かな部主任・勝山初美はじめ3名。現代詩文書部主任・飯沼恵風はじめ11名。篆刻・刻字部主任・小林古径はじめ2名。前衛書部主任・北村白琉はじめ6名。

。一般公募審査事務委員

漢字部主任・飯田春香はじめ12名。かな部主任・須田清子はじめ3名。現代詩文書部主任・高橋真舟はじめ11名。篆刻・刻字部主任・栢野青溪はじめ2名。前衛書部主任・石田和子はじめ6名。

○評論家の眼は従来通り実施。

○実行委員会

第68回書道芸術院展 実行委員会を平成26年6月12日(木) 文具会館に於て開催。

運営委員長・辻元大雲 はじめ実行

委員長、実行副委員長2名、院展関係の各部長、全国学生書道展関係の各部長、事務局長、事務局次長街のお2人にも出席していただいた。

。第68回院展、併催の第66回学生展の部員と日程について確認した。

○第68回院展 作品搬入

。一般公募出品数 766点 昨年は89点減。無鑑査出品数 1035点 昨年は39点減。審査員候補出品数 754点 昨年は9点減。

。審査員出品数 499点 昨年は4点増。

○鑑別・審査

一般公募と無鑑査作品の鑑別・審査が、平成27年1月10日(出)、11日(日)の両日、共和会館と書道芸術院事務所に於て行われた。

。無鑑査に対する院賞15点(漢5、かな1、現詩5、篆刻・刻字1、前衛3) 毎日新聞社賞5点(各部1) 特選118点 秀作276点を決定。入賞率40%

。一般公募に対する準特選49点(漢17、かな5、現詩16、篆刻・刻字3、前衛8)、佳作150点、褒状260点を決定。入賞率59% 入選307点。

○審査員候補に対する特別賞選考

平成27年2月9日(月) 東京都美術館地下審査室で20名の選考委員によって行われた。

各部より10%の枠で賞候補を選考。

更に1/2に絞り、全体の選考対象作とする。

。選考委員の記名投票によって、各部ごとの序列を決めた上で、漢字から前衛書部までの5部門のトップの作を

並べての最終投票。書道芸術院大賞には漢字部・一森琴映(大阪市)が輝いた。更に書道芸術院準大賞5点(漢1、かな1、現詩2、前衛1) 白雪紅梅賞10点(漢4、かな1、現詩2、篆刻・刻字1、前衛2) 書道芸術院俊英賞59点を決定。

○審査員に対する書道芸術院春華賞の選考 平成27年2月10日(火) 都美術館地下審査室で20名の選考委員によって行われた。

各部より20%の賞候補、更に1/2に絞って全員記名投票の結果、漢字部・最首翠風(千葉市)さんが書道芸術院春華賞に輝いた。

なお書道芸術院春華賞候補作品の中から推薦作家展(会場アートサロン毎日)へ次の5名の方を選考した。

漢字・生田翠龍 かな・勝山初美 現詩・横田汀華 前衛・宮崎芳玉 篆刻・刻字・佐藤香山

○第66回全国学生書道展

第66回全国学生書道展には北海道から九州まで全国13の支局・総局から作品が寄せられ、平成26年10月31日(金)締め切った。出品点数は、半紙の部が1万445点。半切1/2の部が232点。

審査は平成26年11月6日(木)9日(日)にかけて、小伏小扇審査部長のもとA賞審査員6名、A賞選考委員8名、中央審査員22名によって行われた。優秀作品が多く、一作一作にじっくりと時間をかけて審査。その結果、全国学生

書道展大賞に半紙の部6点、半切1/2の部4点、準大賞に半紙の部9点、半切1/2の部に5点が選ばれた。なお大賞、準大賞の作品と個人賞の氏名、団体賞については、第66回全国学生書道展成績表冊子に掲載された。都美術館では見応えのする作品が地区別に展示され見事であった。

また、優れた作品をたくさん出品して下さった団体の中で、大阪市の「竹扇会」が全国優勝に輝いた。

○全国学生書道展表彰式

平成27年2月21日(出)午後13時より、帝国ホテル富士の間に於て、毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様、顧問・恩地春洋先生をお迎えして表彰式を挙行了た。

表彰状の授与は運営委員長・辻元大雲はじめ財団理事、監事が務めた。毎日小学生新聞賞、毎日新聞社賞については、糸賀靖夫様をお願いした。

。帝国ホテルでの初めての表彰式。三浦御街事務局次長の手配もよく、良い表彰式でした。平川峰子学生展表彰部長、生田翠龍学生展揮毫部長さんにお礼を申し上げます。

○陳列部

2月15日(日)田村鄭雲・陳列部長のもと、院展、学生展、指導者作品展と膨大な数の作品展示が順調に進み、13時には予定通り記者会見を行うことができました。伊藤懷舟、知野洛水副部長、陳列委員、お手伝い下さった方々、川

端商会の皆様にお礼を申し上げます。

○記者会見

毎日新聞社ほか報道関係、評論家の皆さんにお集りいただき、辻元大雲・運営委員長から資料に基づき、第68回展の概要を説明し記者会見を行った。

○評論家の眼

五禾書房編集長・麻生泰久様、出光美術館・笠嶋忠幸様のお二人に依頼。外部からの作品評価をいただいた。直筆での短評は作品脇に掲示し、批評全文は印刷して参観者に配布しました。

○作品研究会

2月21日(日)午前、展示会場第1室に於て実施。約300名の参加があり、充実した研究会となった。

担当は漢字・大野祥雲、かな・下谷洋子、現詩・小竹石雲、篆刻・刻字・後藤大峰、前衛・板垣洞仙の各部の代表選考委員が行い、最後に辻元大雲運営委員長が総評を行った。

○表彰式

2月21日(土)15時30分より帝国ホテル富士の間に於て挙行了た。

ご来賓は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様、顧問・恩地春洋、香川倫子、村野大仙の各先生をお迎えした。

春華賞、大賞、準大賞は理事長・辻元大雲より授与。以下の各賞については財団の理事、監事によって授与。糸賀様には毎日新聞社賞の授与とともに激励のご祝辞をいただいた。

最後に受賞者を代表して、書道芸術院大賞に輝いた漢字部・一森琴映さん

の謝辞があった。



謝辞を述べる一森さん

○祝賀懇親会

2月21日(土)17時30分より帝国ホテル孔雀の間に於て行う。

大野祥雲常務理事のことはで開会。辻元大雲理事長の主催者あいさつ。続いて、毎日新聞社事業本部長・広田勝己様、全日本書道連盟副理事長・清水透石様、書道評論家・麻生泰久様よりご祝辞をいただいた。

乾杯は毎日書道会専務理事・糸賀靖夫様のご発声で開宴。

なおご来賓は報道関係者、評論家の方々29名でした。私ども書道芸術院の仲間は60余名が出席。和やかな宴となりました。

そのうち評論家の眼の紹介。68回展で春華賞受賞の最首翠風様はじめ一森琴映さんたち入賞者のよろこびの声を

お聴きし宴たけなわとなった。

最後に小竹石雲常務理事のことはで宴を閉じた。

三森慧香部長のもと、佐藤希雲、麻生峰扇さんたち誘導のよさもあって、スムーズに進行。祝賀懇親会もお蔭様で盛り上がった。お礼を申し上げます。



大勢で賑わう祝賀懇親会

○審査部

後藤大峰審査部長のもと事務局、総務との連携もよく、審査、事務処理ともに順調に進めていただいた。出品作の多い漢字、現詩の委員の方々にはご苦勞をおかけしました。尾形澄神副部

長はじめ部員の皆さんにお礼を申し上げます。

○総務部

総務は学生展、院展とも作品、書類の搬入、整理、審査準備、撤回、搬出、学生展作品の返送作業など大変でした。ベテラン委員の方々によって大過なく遂行していただいた。

江本興舟部長、前田まさ美学生展部長、桐岡銘紀、小島孝子副部長はじめ委員の皆様にお礼申し上げます。

○会計部

会計部は院展の全ての部署との連携を保ち陰のささえとしてご尽力していただいた。膨大な予算を緻密な計算によって誤りなく処理していただいたご苦勞に対し、白石和楓部長、東福青篁副部長に心から感謝申し上げます。

○運営事務局

院展、学生展、運営の全てに関わり、膨大な事務局作業をコンピューターを駆使。事務処理担当の棚リンクスとの連携を密にして進めていただいた。

各部の当番審査員並びに委員の人数割出しに始まり、出品個票の出力、搬入統計の集計、賞の配分、審査結果の通知、陳列計画、出品目録作成、作品配置、祝賀会座席配置など、総務、審査、陳列、祝賀会・表彰、会計とあらゆる部署との事務処理に関わっていただいた。

千葉蒼玄事務局局長、前田龍雲・三浦鄭街事務局次長のご苦勞に深く感謝申し上げます。

張猛龍碑（北魏）②

〈解説〉張猛龍碑は北魏というより、六朝諸碑の中でもその完成度において屈指の名碑である。その書は筆力横溢。すべての点画に躍動感があり、剛毅の気性を内にもっている。右肩を厳しく怒らし、前のめりに傾いた字形であるが、奔放で強い筆勢によって巧みに均

漢字研究部臨書課題

Ⅱ（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

Ⅱ（毎日展公募サイズ以内・縦横自由）

当該古典の左記掲載部分以外も可。

衡を保ち、雄大にしてなお緊密である。その書風は牛欄造像記をはじめとするいわゆる「龍門様式」であるが、より一層整備され、北魏書の集約された楷書美を示すものといえる。

（編集部）

※落款を必ず入れる
署名、もしくは
〇〇臨

（押印のみも可）



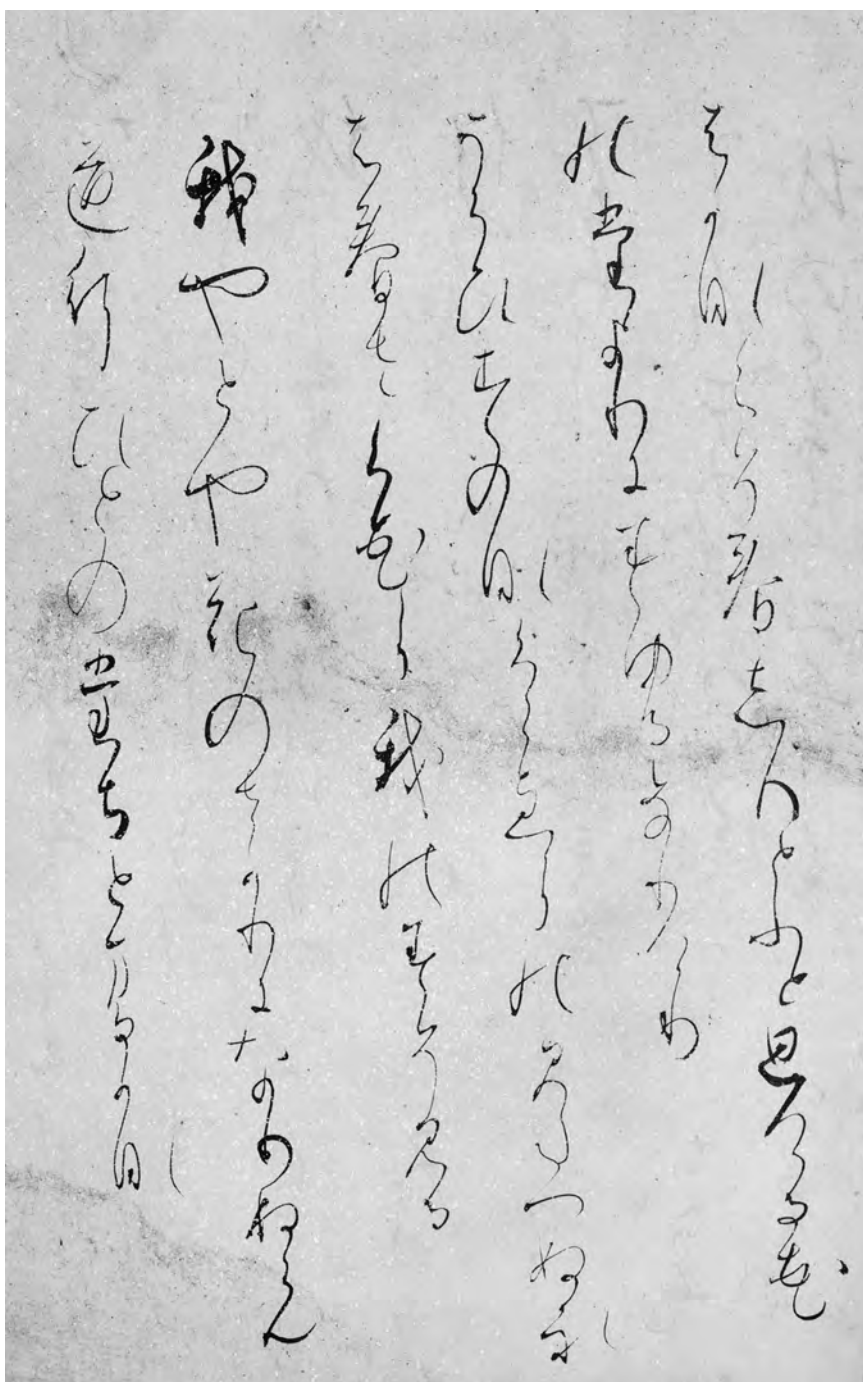
大夫張老。春秋嘉／其聲績。漢初趙景／王張耳。浮沈秦漢。

かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
 別紙を裁断して貼付も可。半懷紙は半紙サイズに切って使用のこと。
 左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

特別研究部臨書課題

Ⅱ(毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。



(90%縮小)

〈解説〉

伝行成筆本「重之集」は、素紙に薄藍の雲形を漉き込んだ雲紙の全体に雲母の砂子を撒いた優美な料紙に書かれ綴・葉装の冊子本である。

書写の様式は、春部より秋部までは和歌1首2行書きである。冬部以降は3行の散らし書きもあり、巻末は自由な散らし書きが多く見られる。字形は豊円にして線は繊細流麗であり、よく暢達している。運筆は軽快にして、円転自在の妙を示している。さらに、墨継ぎの濃淡が巧みであり全面に立体的な美しさをみせている。

(編集部)

〈よみ〉

者^可那^久曾^志无^介
 は^可な^久く^曾春^志しも^介と^介ふ^介と思^介ける^介花^介
 能^堂利^尔美^奈利^介介^利
 の^たよ^りに^みゆ^るな^りけ^り

久^久春^那久^平能^見多^れ
 う^ぐひ^すの^なく^こゑ^をの^みた^づぬ^れ
 ば^春さ^く花^を我^のみ^ぞ見^る

我^やど^や花^のさ^かり^にな^りぬ^{らん}

道^行ひ^との^たち^どま^るか^な

※落款を必ず入れる

署名、もしくは

〇〇臨

(押印のみも可)

漢字規定 初段以上 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小竹石雲選書

落紙雲煙

よみ (落紙雲煙)

書体Ⅱ自由



習い方解説 (二)

小竹石雲

落紙雲煙
(落紙雲煙)

(杜甫)

大らかななかに格調の高い書をめざして書いた。

◎注意点

- ・体の力をぬいて4文字と紙面を掌握して書くことが大切。
- ・線の太細を入れることで作品に表情が生まれてくる。やや左に傾けた字形は、楮遂良、米芾を参考にした。行書の表現域は広くて深い。それだけ底しれぬ楽しさが湧いてくる。
- ・「落」左側に重みをつけたため「各」を細く大きめにして均衡を。
- ・「紙」は「氏」の最終画を長くして1行のバランスを心がけた。
- ・「雲」も「落」同様左に重心をかけ、右に広い余白を抱かせ、「云」の最後の横画を長くし安定感を。
- ・「煙」は「西」の縦画の相対する線に太細の変化をつけた。

漢字規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

大隅晃弘 選書

天 長 地 久

よみ (天は長く地は久し)

天 地
長 久

書体Ⅱ楷書

習い方解説 (二)

大隅 晃 弘

天長地久
(天は長く地は久し) (老子)

半紙縦長での限られた紙面に4文字を入れると、1字1字が無意識のうちに縦長の造形になる傾向があります。素材(語句)や書体・書風等、創作のねらいによっては、余白を生かしながら、縦長の造形を是正しなければなりません。落款の位置を含めた紙面構成についても工夫が必要となります。

北魏の鄭碑を参考に書作しました。懷を広く構える造形は、普段の書作でも意識したいところです。多様な起筆の工夫、直筆と側筆を織り交ぜた絶妙なうねり、収筆での筆勢の制御等、鄭書の魅力は尽きることがありません。墨の濃度と運筆の速度に注意しながら、効果的な渴筆を意図して表現できれば、創作の幅が更に広がるでしょう。

かな規定 初段以上 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判（料紙可）

大辻多希子選書

習い方解説 (二)

大辻 多希子

日もすがら若葉のうへの曇り空
暮るれば赤き月出でにけり

（島本赤彦）

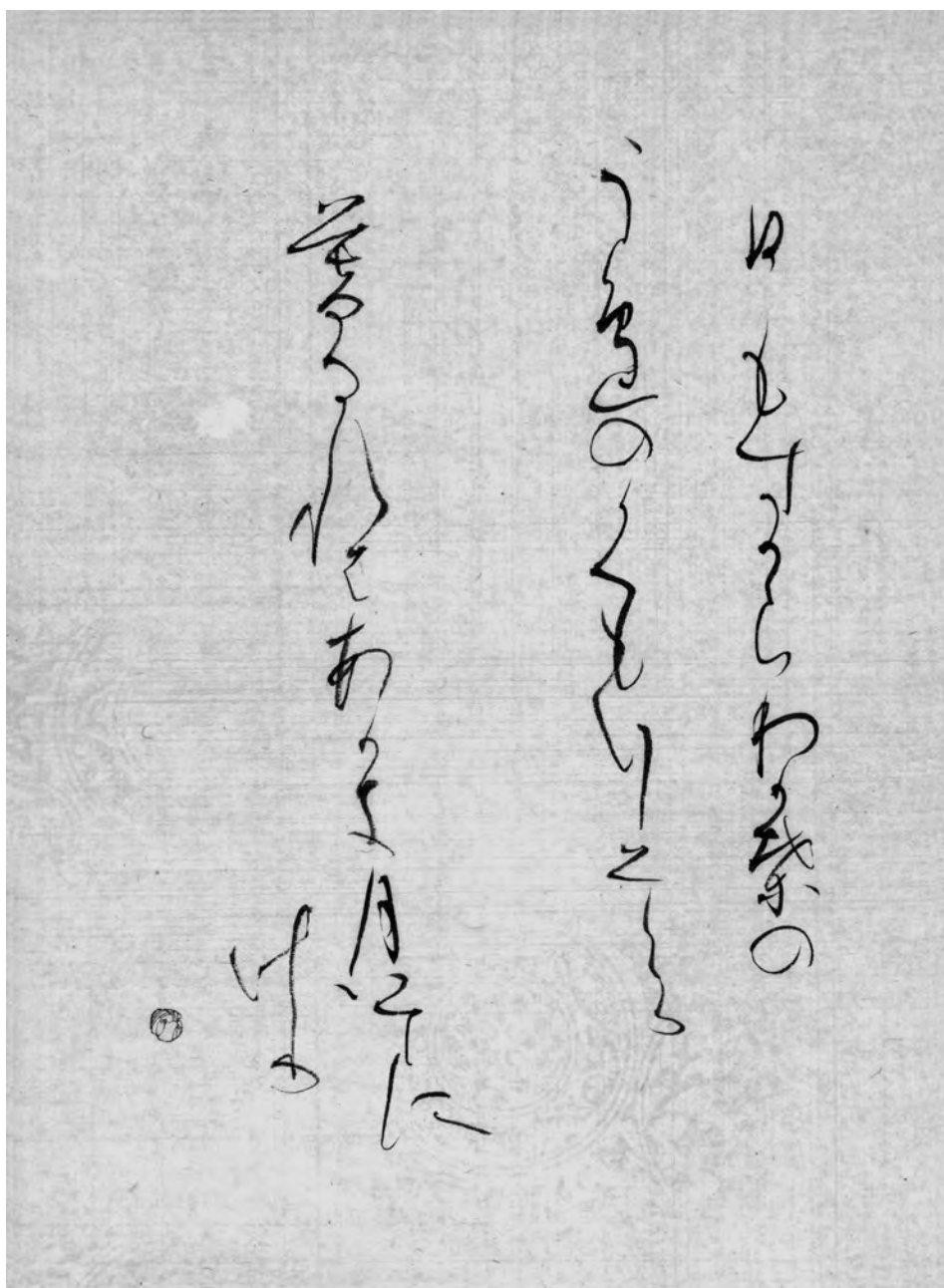
短歌一首、4行の基本的な作品から、創作の手がかりについて、書きたいと思います。

今回の作品は、3行と最後に2文字を置き、1行目から3行目までの行の長さを変えて少し変化を試みました。

表現方法として、行数を多くするとまた違う表情になると思いますが、初心者の方は最初から複雑な構成は避け、少しづつ行数を多くする方法が良いと思います。

各行の中に、縦に伸びる線や、横に張る文字を置くこと変化を出しやすくなります。また、行の中には画数の多い変体かなや、漢字を入れると作品が引き締まります。

同じ大きさの文字が並ばないように配慮しましょう。



よみ方

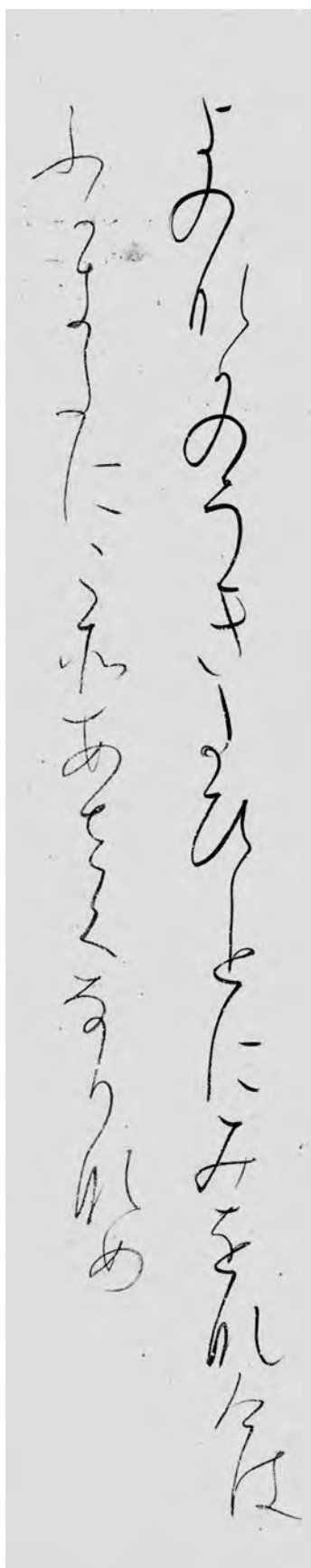
日もすが(可)らわか(可)葉のうへ(邊)のく(久)もりそら
暮るれば(者)あか(可)き(支)月いでにけり(利)

創作

かな規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1/2 (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野 切第三種
(掲載写真縮小93%)

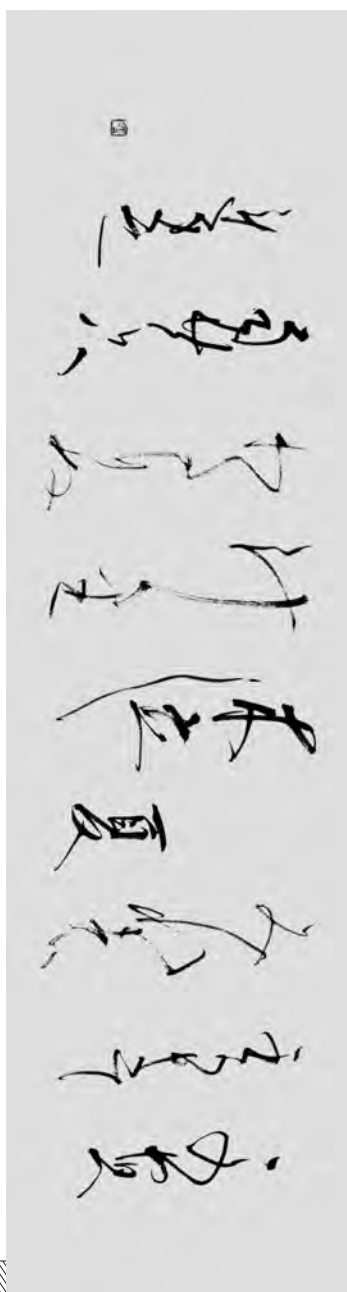


よみ方

よのな(那)か(可)のうきた(多)びごとにみをな(那)げ(介)ば
ふか(可)き(支)た(多)にこそ(所)あさく(久)な(奈)りな(那)め

かな条幅規定 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

見越雪枝選書



よみ方

この宿へわ(王)が(可)き(支)てみれば(者)夏木立
しげ(計)り(里)わた(多)りぬ雨の(農)は(八)れ(連)ま(末)に(二)

創作

習い方解説 (二)

見越雪枝

この宿へわが来てみれば夏木立
茂りわたりぬ雨の晴れ間に
(良寛)

あまり字体を傾けず、行書きの形をとりました。また、書き始めこのを重くさせず、少なめの墨で書き出し、夏、雨と3箇所で墨つぎをしました。

半切の横作品は、文字の大きさも制限され小さめとなります。

行間は一本調子にならぬよう、字にメリハリをつけて書くと、動きが出てきます。

※よこ形式に限る

出品券
貼付位置

漢字条幅規定 初段以上 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

崎井恵風 選書

習い方解説 (二)

崎井恵風



千峰鳥路含梅雨 五月蟬聲送麥秋 (李嘉祐)
(千峰の鳥路梅雨を含み、五月の蟬の聲は麦秋を送る)

書体Ⅱ自由

鳥路は鳥だけしか通わぬような山路。山々はつゆ模様。5月の蟬は麦の収穫期を送って鳴く。李嘉祐の詩です。初夏の訪れを知らせる蟬の鳴き声に合わせ、躍動感のある表現をと、筆先のリズムを大切に書作しました。ねらいのある作品づくりを心がけて下さい。

※たて形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下 【六月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

最首翠風 選書

習い方解説 (二)

最首翠風



黄鳥銜落花 (朱景素)
(黄鳥落花を銜む)

(朱景素)

書体Ⅱ自由

今月は行書体です。行書体は日常もとても多く使われる書体です。行書の省略法も覚えると便利でしょう。課題の中の「鳥」は「𪇔」(連火)が点3つに省略されたり、「一」になったりします。草かんむりにも行書独特の形がありますね。

※「黄鳥」は鶯の異称

あなたがたは、地の塩である。

だが、塩に塩気がなくなれば、そ

の塩は、何によって塩味が付けら

れよう。もはや何の役にも立たず、

外に投げ捨てられ人々に踏みつ

けられるだけである。

泰濤書

用紙Ⅱはがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体Ⅱ自由

習い方解説 (二)

牧 泰濤

料理の良否は塩で決まるといふ。所謂、かくし味である。塩気や塩味は料理人の手加減ひとつである。では書作品の、塩気塩味の「かくし味」は何が決め手になるのだろうか。字形？筆力？墨色？…。違ふと思う。これらは皆、目に見えるものである。だから「かくし味」とはいえない。

書作品の味は何かといえ、私は線質であると思う。一点一画の中に秘められた、内より語りかけてくる、えもいわれぬ「気」だと思う。心象というか。「なんともいえないがいいなあ」「どこか魅力があるなあ」と訴える線であると思う。では、どうして会得するかといえ、古典に習い、周囲の先輩方の生業に習って書技と人間性を高めるしかないと思う。その結果として塩気のある書作品がいつしかできる。今号も、役に立ちそうにない無塩の手本でスミマセン。

※落款を必ず入れる。

(自分の名前を入れること)

木一作品 各部総評

NO. 647

ペン字部 師範 高津 谷麗

繊細な筆致のなかに気字の大きさ・温雅な表情が醸し出され、布置・落款までの統一感が美しい。
◎ペン字部総評 限られた紙面にどのような表現にするか、線・バランスの美しい作品は魅力ある。やはり日頃の研鑽か。(和楓評)

母貞名松翁
平安時代の三筆、三蹟の書を近代書道へ橋わたしたのは江戸時代末期の三筆(巻菱湖・市川米庵・貫名菴翁)といわれています。中でも松翁は、和漢の古典を広く学び、近代の弘法」と称賛されています。
谷麗書

かな条幅部 準師 尾形 紅霞

伸びやかなリズムにのって、筆先を駆使した流れが美しい。作者名はもう少し大きく入れましょう。
◎かな条幅部総評 変体がな禮の誤字が多かった。必ず字典で確認を、濃墨はかなの流れが美しく出ないので避けたい。(洋子評)

前衛書部 特選 永井 悦子

淡墨で発墨もよく切れ味鋭い書線で構成され好感がもてる。更なる発展を望みます。
◎前衛書部総評 様々な工夫された作品が多く喜ばしいが、草稿を練り出してほしい。(仙草評)



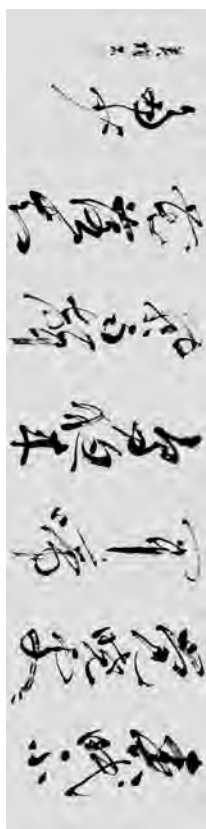
現代詩文書部 特選 大橋 佑朋

研ぎ澄まされた線質は古典臨書の賜。それを作品に効果的に表現している作。
◎現代詩文書部総評 変化を求める余り字形デフォルメが品格の無いものになっている。(素雪評)



漢字条幅部 師範 鷺山 美梢

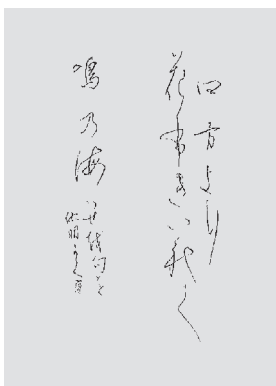
筆が軽やかに舞い、潤いある書線が美しく輝いている。日頃の学書の成果見事に結実。



◎漢字条幅部総評 上級者、横型式作品の構成工夫し魅力的に仕上げた作が多く見られた。校字を着実に、誤字注意。(萬城評)

かな部 師範 大橋 佑朋

大らかな運筆に魅了されました。その上、太細の変化が自然で美しい。更には墨量変化の研究を希望。
◎かな部総評 テキストから半紙大への拡大が困難な作多く残念。拡大コピーの利用も一助に。紙面のバランスを大切に。(明子評)



漢字部 師範 加藤 龍恵

歯切れよい運筆のリズムで爽快な作。やや軽さを感じるが明快さを買う。更に練度ある作を期待。
◎漢字部総評 上級草書表現作多かったが線質弱い作多見。運筆のリズムをしっかり身につけて力ある作を。下級も同様。(大雲評)



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

臨書 (千葉) 竹浪叙舟 「自書告身帖」



竹浪叙舟臨

59×179cm

◆懐を広く構えた向勢の字形を忠実に臨書した真摯な作品。全体構成を計算し、着実に仕上っている。

(萬城評)

◆建中帖をやや拡大して安定した臨書。字間行間のバランスもよく細部の観察眼も冴えている。

(大雲評)

◆ゆったりと丁寧に、筆者の性格が透けて見える。全体像をよく把握しての全臨かと、姿勢も模範に。

(洋子評)

◆顔法のふくらみのある造形を表現して暖か味のある線でもとめた。字の大きさにばらつきがあるのも味か。

(蒼玄評)

前衛書

(蓮紅社)

大友紅蓉 「想」



181×60.5cm

大友紅蓉書

臨書

(千葉)

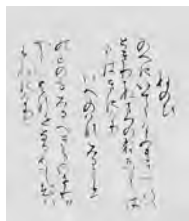
平野笛舟 「中務集」



180×60.5cm

平野笛舟臨

部分拡大



◆部門の違う方がかなの全臨に挑む志に敬服。しかも内容をよく理解し、リズムにぶれが無く感動的。

(洋子評)

◆普段の学書の態度をしっかりと見せてくれる臨書。中務の細やかで鋭い線質をよく捉えている。

(大雲評)

◆真面目な臨書で字形造形をよくとらえている。このような臨書の積み重ねが作品制作に生きてくる。

(蒼玄評)

◆3部構成、三角・丸・変形と形を変化させて動きを出している。ただ空間が均一でリズムがほしい。

(蒼玄評)

◆直曲のバランスで調和しているが、緊張した直線が意表を突く。押し切った気迫は前衛書の醍醐味か。

(洋子評)

◆上部から下部へ3段構成は紙面をダイナミックに流動感ある表現としている。やや粗さが眼につく。

(大雲評)

◆上部から中部への直線が冴える。下部にもう少し締りがあれば一層冴えた。中部の動きは魅力的です。

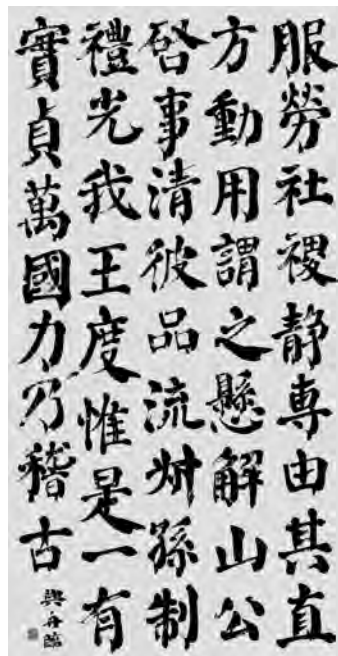
(萬城評)



熊谷桃華書

53×137cm

- ◆のびやかに広がる作。やや終行苦しい感あるが、堂々とした懷抱の広さをとる。更に工夫研究を。(大雲評)
- ◆大らかに体ごとぶつかるような迫力に圧倒される。漢字とかなのバランスに疑問も残るが、気持よい。(洋子評)
- ◆漢字作品で練えた線を現代詩文書の表現に活用しようと工夫した努力作。今後の作も期待出来る。(萬城評)
- ◆淡々とした筆致で豊かさを感じさせる。後半部は流れ過ぎか、また作者名落款が固くなり過ぎた。(蒼玄評)



江本興舟臨

135×70cm

臨書 (大雲) 江本興舟 「自書告身帖」

- ◆全紙5行書きで真正面から向き合う臨書態度。まとも過ぎる感あるが暢達した線に味あり。(大雲評)

(大雲評)

- ◆誠実な臨書だが、やや意臨的な所も伺え、筆勢が見事。臨書に自らの呼吸をのせて澀刺とした作品。(洋子評)

(洋子評)

- ◆筆づかいに速度感があり、原本に筆勢を加味し、明るく、活き活きとした臨書となり、心惹かれた。(萬城評)

(萬城評)

- ◆ねっとりとした濃墨で厚みのある線表現は見事。右はらい線の抜きをゆっくりとすれば重厚さが増す。(蒼玄評)

(蒼玄評)

前衛書 (白珠) 磯沼麗華

「流れ」

- ◆軽やかな渴筆で白が生きている。造形も大から小へ流れてリズム感もあるが最上部は少し墨量がほしい。(蒼玄評)
- ◆凝縮された潤筆部をコアとして上部から下部へ流れるリズムを醸す。濃墨による潤濁が冴える。(大雲評)
- ◆非常に音楽的で立体感が美しい。渴筆も含めて、紙面の余白が浮き立ち、感性に溢れた現代性が宿る。(洋子評)
- ◆超濃墨の墨だまりが美しい。中央部から下部にかけての余白部分を上部のボリュームが引き立てた。(萬城評)

(大雲評)

(萬城評)



磯沼麗華書

151×45.5cm

創作の部(43点)

漢字 7点

かな 4点

現代 17点

篆刻 2点

前衛 13点

臨書の部(30点)

漢字 28点

かな 2点

総出品点数

73点

〈特選候補者〉

〔創作の部〕

〔漢字〕

秀恵 阿部 雅悠

AI 清水由紀子

〔かな〕

卯月 酒寄 光子

〔現代詩〕

大拙 畠中 成山

惠雅 板橋 雅邦

〔篆刻〕

大雲 佐藤 希雲

〔前衛〕

山王 鈴木 春江

杏苑 松永 杏苑

〔臨書の部〕

〔漢字〕

陽陽 岩崎 陽光

大雲 宮原 香扇

大雲 名取 美紬

英峰 吉瀬 彩雨

漢字研究部
(自書告身帖)

選評 名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



島田 煌 泉

◎漢字研究部総評

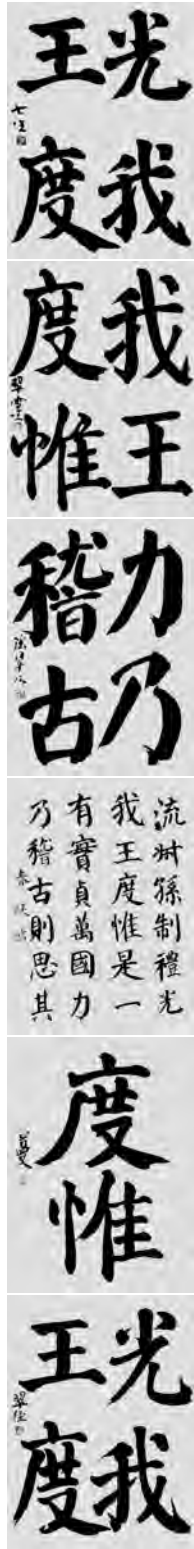
臨書で大切なことは観察と知識、そして理

形質ともに優れ、細部にも神経の行き届いた堂々たる臨書です。特に注目すべきは終筆の処理です。顔真卿の特徴であるハネと縦画は誰もが神経を使うところですが、横画と転折部の筆の突き立てが見事に再現されています。

解したことをきちんと表現できる技術をバラス良く発揮することだと思います。知識不足だと「法」が抜け落ちやすく、用筆が不正確になりがちです。一方知識偏重だと「分かったつもり」になって詳しく観察することが疎かになり、観念的な臨書になりがちです。今回の審査で気になったのは、横画の起筆終筆に顔法による筆の突き立てが感じられないものが案外多かったことでした。



春曉彩和久玉
峰雲雨美子泉



翠 春 瑤 翠 七
蔓 峽 翠 雪 生



芳 翠 淳 朱 篁 郁
子 朋 子 星 右 子



紅 菜 初 陽 祥 太
雨 摘 江 光 扇 碩

